

生きたる

真宗大谷派 存明寺通信

NO.205

2022年(仏歴2553年)1月1日発行

お寺の写真館



↑お寺の行事風景も、すっかり様変わり。



↑オンラインと生参加のハイブリッド。



↑もちろん感染対策を徹底しながら…



↑変わらずに道を求めて歩み続けます。

常心に
憶い続ける
言葉を
もて



常に心に 憶い続ける 言葉をもて

12月の京都・東本願寺の門前にこのよう
な言葉が掲示けいじされていた。思わずドキリ、そ
して考える。常に心に憶い続ける言葉とは、
私にとって一体どのような言葉なのだろう
か、と。

昨年もたくさんの方の言葉に出会った。しか
し、それらの言葉の前を、ただ通り過ぎてし
まったような気がする。

常にひとつの言葉を憶い続け、常にその言
葉に立ち帰り続ける。そのような言葉がある
だろうか。しばらく考えてみる。そして、ふ
と思いついた言葉が、ふたつあった。それは、
浄土真宗の先生から教えていただいた言葉
だった。(4ページに続く…)



存明寺の HP

<https://zonmyoji.jp>

違いと同じ

住職 酒井義一



違いを生きる

私たちは、たくさんの「違い」を抱えながら、今を生きています。名前や性別、誕生日や国籍が違います。身長や体重、趣味や職業も違います。育ってきた環境や歩んできた人生も違います。このように、数え上げればきりが無いほど、たくさんの「違い」を抱えて、私たちは今を生きています。

同じを生きる

しかし、違いだけではなく、意外なことに、「同じ」ことも実はたくさんあります。

まず、生き物のいのちをいただいで生きている、ということが同じです。人間は、他の生き物を食

べなければ、生きていけない存在

です。言葉をかえれば、人間は他のいのちを犠牲ぎせいにしながら、今を生きているということになります。そして、限りのあるいのちを生きていて、ということも同じです。

永遠に生き続ける人は、ひとりもいません。いつかは終わっていくのちを、今私たちは生きているのです。それは、やがて死にゆくいのちをどう生きていくのかという問いを抱えながら生きている、ということでもあります。

そして、様々な煩惱ぼんのう(問題)を抱えながら生きている、ということも同じです。思い通りにならない現実、その中で感じる苦しみや悲しみ、空しさ、孤独、不安、自責じせきの念…。誰もがそのような煩惱(問題)を抱きながら今を生きているのではないのでしょうか。

さらに、自分の目で直接自分の姿を見ることができない、ということも同じです。目は外のものを見るためにあるからです。驚くことに、人間は自分自身のすがたさえ、自分の目で直接見ることはできません。自分のすがたが自分では見えないもの、それが私た

ちです。

実は、このように多くの「同じ」を抱えて今を生きているのが、私たち人間です。

同じが見えない

しかし、普段は他のいのちを犠牲にしながら…などとはなかなか思えません。おいしいかまずいか、高い安いかなどに気を取られているからです。

限りのあるいのち…ということも見えにくいことです。しばらくは死なないだろうと先送りしたり、死を見ないようにしているからです。

誰もが様々な問題を抱えている…ということも、見失いがちです。比較の中を生きているからです。相手をうらやんだり、さげすんだり。

自分のすがたが見えず、「同じ」が見えにくいということは、たくさんあるようです。

最大の「同じ」とは

そのような私たちに親鸞聖人は言います。

大悲だいひ、倦きものうことなく

常に我を照てらしたまう

(正信偈 207ページ)

自分では気がつけない闇を抱えて生きている私を、仏さまは、大いなる悲しみをもって、いつでも、どこでも、どんな時でも、照らし続けているというのです。

私たちの最大の「同じ」は、ここにあります。そうです、誰もがみな、自分では気づくことのできない闇を抱えているがゆえに、誰もがみな、教えのひかりに今も照らされ続けている存在なのです。それが最大の「同じ」です。

相手の中に、人類に共通する課題を見だし、共にひかりに照らされる世界に向かって歩みを進めていく。そんなていねいな歩みを大切にしていきたいものです。今年もどうぞよろしくお願いたします。



私を照らすひかりの言葉

—お寺の掲示板を飾った言葉たち—

ここ1・2年の間に、お寺の3つの掲示板を飾った言葉たちを、ランダムにご紹介します。



◆ 人知るもよし

人知らぬもよし

我は咲くなり

(武者小路実篤)

◆ 不安は

いのちそのものが

確かなものを求めている

うめき

(宮城 顛)

◆ 失敗が 人を 育てていく

◆ 人は皆 誰もが 求道者

人として生きる道を
誰もが皆求めている

◆ 弟子に準備ができたとき

師は自然と現れる

◆ 如来は

「こんな奴はだめだ」とは
絶対にいわない (安田理深)

◆ 恩返しは なかなかできない

でも恩を送ることは できる

◆ 自分の外にあるものを

支えに生きるかぎり
いつも不安におびえねばならぬ

◆ 人間の抱く課題を

裏から見ると

願いが見えてくる

(尾角光美)

◆ 不安はなくすべきものではなく

活かすべきものなのです

(上田紀行)

◆ 「私」ということが

問題にならない限りは

人間にとって 出発は

起り得ない

(平野 修)

◆ いたずらに

後悔を貽すことなかれ

訳 悔いなきいのちを

生きてほしい

(親鸞)

◆ 人知るもよし

人知らぬもよし

我は咲くなり

(武者小路実篤)

◆ 不安は

いのちそのものが

確かなものを求めている

うめき

(宮城 顛)

◆ つらく苦しいことは

不幸なことではなく

それを通してのみ

見えてくる世界がある

(伊藤 元)

◆ 踏みつけられた

ひとりの人間を

忘れていないか

静かに落ち着いて

ひとりの人間を見届けていく

心のこもった

勇気がほしい

(宗 正元)

◆ たとえ一生を尽くしてでも

遇わねばならない

ひとりの人がいる

それは… 自分自身



【街角】 街行く人に届く言葉を



【境内】 経典や親鸞聖人の言葉を



【門前】 お寺のテーマになる言葉を

お寺のひろば 2022年(令和4年)

2022年のお寺のひろば

12月17日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
12月10日(土)	14時	樹心の会
11月12日(土)	14時	樹心の会
11月2日(水)	14時	報恩講のゆうべ
10月28日(金)	10時	おみがきのつどい
10月15日(土)	14時	樹心の会
10月1日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
9月23日(金)	11時と13時	秋のお彼岸法要
9月16日(金)	13時	おそうじの日
9月10日(土)	14時	樹心の会
8月27日(土)	午後	青年のつどい
7月13日(水)	11時と13時	お盆法要
7月9日(土)	11時	新盆法要
6月25日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
6月11日(土)	14時	樹心の会
5月14日(土)	14時	樹心の会
5月3日(火)	12時10時に変更	永代経法要
4月28日(木)	10時	おみがきのつどい
4月9日(土)	14時	樹心の会
3月26日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
3月21日(月)	11時と13時	春のお彼岸法要
3月12日(土)	14時	樹心の会
3月4日(金)	13時	おそうじの日
1月1日(土)	10時	修正会

(1ページからの続き ふたつの言葉)

人は皆 誰もが 求道者

自分ではそう思うことはできないが、仏さまのまなこから見れば、人は皆誰もが、道を求めてこの世を懸命に生きる者。すなわち求道者。私の隣にいるあの人も、きのう喧嘩をしたあの人も。私が常に立ち帰るべき言葉。

相手の人間性を無視すれば
自らも人間でなくなっていく

相手の人間性をバサツと切っておいて、私だけは人間ですということとは、本来成り立たないこと。人間関係の真実を言い当てた和田稠先生の言葉。同じく私が常に立ち帰らされる言葉である。あなたの思い続けている言葉は、どのような言葉ですか？

お寺の
存明寺

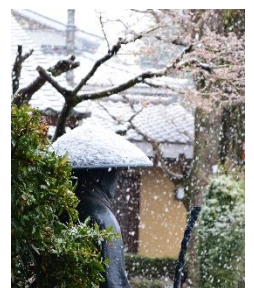
あなたのお話をお聞きします。
まずはメールでご連絡ください。
(住職：酒井義一)

sakai@zonmyoji.jp



あながき

▼新型コロナウイルスはその姿を変化させながら生息しています。人類は、様々な制約を受けながらも、今を生きようと、もがいています。▼そのような状況が続いていますが、あらためて今年の所信を表明します。それは、様々な困難はありますが、人々とともに教えに学んでいくことを、決してあきらめない、ということ。▼今年も、感染予防を徹底しつつ、工夫を凝らしながら教えに出遇う場を創造していきます。それぞれの無理のない形での、積極的なご参加を、心からお待ちしております。▼お体ご自愛の上、ご活躍ください。(住職・釋諦信)



東京都世田谷区北烏山4-15-1
真宗大谷派 存明寺
住職 酒井義一(釋諦信)
〒157-0061 TEL 03-3300-5057
FAX 03-3300-5880
E-mail : sakai@zonmyoji.jp